

会 議 録

会 議 名	令和元年度第2回小金井市史編さん委員会																						
事 務 局	生涯学習課 文化財係																						
開 催 日 時	令和元年10月21日(月)午後2時から3時半																						
開 催 場 所	小金井市役所第二庁舎801会議室																						
出 席 委 員	根岸委員長 大熊委員 中嶋委員 井上委員																						
欠 席 委 員	住野委員 牛米委員 日高委員																						
事 務 局 員	関生涯学習課長 山崎文化財係長 高木主事(学芸員)																						
傍 聴 の 可 否	可	傍 聴 者 数	1名																				
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由																							
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 第5期市史編纂委員委嘱状交付</li> <li>2 委員長、副委員長の互選</li> <li>3 議 題             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 市史編さん事業総括について</li> <li>(2) 令和2年度以降の事業計画について</li> <li>(3) 市民協力員の活動について</li> </ol> </li> <li>4 報 告             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 小金井市史刊行記念講演会について</li> <li>(2) 市史編纂資料第59編 梶野家文書(4)</li> </ol> </li> <li>5 次回の会議日程             <p style="margin-left: 40px;">令和2年2月3日(月)午後2時～</p> <p style="margin-left: 40px;">於：市役所第二庁舎8階801会議室</p> </li> <li>6 配付資料             <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 80%;">(1) 小金井市史編さんのまとめ(総括)構成案</td> <td style="text-align: right;">資料1</td> </tr> <tr> <td>(2) 小金井市史関連刊行物計画概要</td> <td style="text-align: right;">資料2</td> </tr> <tr> <td>(3) 小金井市史編さん活動市民協力員調査項目一覧</td> <td style="text-align: right;">資料3</td> </tr> <tr> <td>(4) 小金井市史編さん委員会条例</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(5) 小金井市史編さん大綱</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(6) 主催事業のチラシ(2件)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(7) 東京の文化財第127号</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(8) 国登録有形文化財(建造物)旧中村研一邸主屋ポストカード</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(9) 本町六丁目遺跡報告書</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(10) 小金井の教育平成30年版、月刊こうみんかん7,8,9,10月号</td> <td></td> </tr> </table> </li> </ol>			(1) 小金井市史編さんのまとめ(総括)構成案	資料1	(2) 小金井市史関連刊行物計画概要	資料2	(3) 小金井市史編さん活動市民協力員調査項目一覧	資料3	(4) 小金井市史編さん委員会条例		(5) 小金井市史編さん大綱		(6) 主催事業のチラシ(2件)		(7) 東京の文化財第127号		(8) 国登録有形文化財(建造物)旧中村研一邸主屋ポストカード		(9) 本町六丁目遺跡報告書		(10) 小金井の教育平成30年版、月刊こうみんかん7,8,9,10月号	
(1) 小金井市史編さんのまとめ(総括)構成案	資料1																						
(2) 小金井市史関連刊行物計画概要	資料2																						
(3) 小金井市史編さん活動市民協力員調査項目一覧	資料3																						
(4) 小金井市史編さん委員会条例																							
(5) 小金井市史編さん大綱																							
(6) 主催事業のチラシ(2件)																							
(7) 東京の文化財第127号																							
(8) 国登録有形文化財(建造物)旧中村研一邸主屋ポストカード																							
(9) 本町六丁目遺跡報告書																							
(10) 小金井の教育平成30年版、月刊こうみんかん7,8,9,10月号																							

## 会 議 結 果

関生涯学習課長 お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。令和元年度第2回市史編さん委員会を開催いたします。まず議題に先立ちまして、本日の配布物を確認させていただきます。

山崎文化財係長 配布物の確認をさせていただきます。次第の下に資料1から3までが添付されております。資料3は両面ございます。そして、市史編さん大綱、小金井市史編さん委員会条例、主催事業、市史刊行記念講演会の、企画展「小金井の石造物」のチラシ、東京の文化財第127号、小金井の教育平成30年版、本町六丁目遺跡の報告書、東京文化財ウィーク関連パンフレット、通年公開編と特別公開編の2冊、旧中村研一邸主屋が国の登録文化財となりまして、説明の付されたカードができましたので、それもお配りいたしました。そして月刊こうみんかん、以上になります。不足がございましたらお申し付けください。

関生涯学習課長 不足はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

### 1 第5期市史編さん委員委嘱状交付

関生涯学習課長 本日は第5期市史編さん委員会第1回目の会議となります。本来西岡市長より委嘱状の交付を行なうところでございますが、申し訳ございません。本日、別件の公務につき、机上配布にて交付とさせていただきますと思います。ご了承のほどよろしくお願いいたします。任期につきましては、令和元年8月20日から令和4年8月19日までの3年間となっております。第5期の委員の選任にあたりましては、事前に事務局から皆様にお伺いし、再任のご意志を確認させていただきました。なお、林委員におかれましては、ご事情により委員の継続を辞退される旨のご連絡を頂戴しておりますので、皆様にご報告させていただきます。

それでは、本日は期が変わって第1回の会議となりますので、皆様改めて簡単に自己紹介をお願いしたいと思います。それでは、根岸委員からよろしくお願いいたします。

根岸委員長 根岸でございます。國學院大學で江戸時代について教えております。小金井には、20代中頃からですから40年近く、ここの史料の調査、編さん資料の刊行などで、協力させていただいております。これからもよろしくお願いいたします。

関生涯学習課長 それでは、中嶋委員、よろしくお願いいたします。

中嶋委員 中嶋と申します。前回の会議までは、元早稲田大学講師という肩書きだったのですが、現在又早稲田大学講師に戻りました。こちらでは、現代史を担当しております。今後ともよろしくお願いいたします。

関生涯学習課長 井上委員、よろしくお願いいたします。

井上委員 フェリス女学院大学の教員をしている井上と申します。私個人は、戦前、近代の女性教諭の研究をしているのですが、ここでは、市民として、参加させていただいております。男女共同参画推進審議会の委員をしているときに、女性の委員を入れたいということで、歴史を研究していたらちょうどいいということで私が委員になりました。小金井市

には、1990年代の後半に引越しをしてきて、コンパクトな住みやすい、子育てもしやすいいい街だと思って住んでおります。市民の立場からの発言をしなければと思っておりますが、正直言って、市史編さんは完成いたしました。編さんに直接携わってくださってくださった方々が一番ご苦労が多いということはずっと思いながら、拝見していたという感じです。これからもよろしくお願いします。

関生涯学習課長  
大熊委員

ありがとうございます。それでは、大熊委員お願いいたします。

第5期市史編さん委員をお引き受けいただきありがとうございます。激動の時期を迎えているときには、確かな羅針盤が必要になります。歴史を紐解いた先に進むべき方向が見えると考えると、今回作られた通史編も、未来の小金井を示すための確かな羅針盤になるのではないかと考えているところです。

委員の皆様には、ご自身のお仕事でお忙しい中、小金井市史編さん委員の仕事をお引き受けいただきまして、本当に感謝に堪えません。第5期もその役割の大きさをもう一度ご認識いただき、是非とも又お力をお貸しいただければと考えているところです。どうかよろしくをお願いいたします。

関生涯学習課長

ありがとうございました。

なお、本日、委員の日高委員、牛米委員につきましては、ご欠席の連絡をいただいております。住野委員につきましては、本日、緊急に他の会議が入ってございまして、終わり次第こちらに向かうとの連絡をいただいております。

## 2 委員長、副委員長の互選

関生涯学習課長

それでは、委員長が選ばれるまでの間、私の方で進行させていただきます。続きましては、委員長、副委員長の互選となります。まず委員長の互選ですが、互選につきましては、小金井市史編さん委員会条例第5条により委員会の中から互選するとなっております。どなたかご推薦ございますでしょうか。

大熊委員

ぜひとも根岸委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

関生涯学習課長

ただいま、大熊委員から根岸委員を推挙する旨の申し出がされましたが、皆様よろしいでしょうか。

委員

(承認)

関生涯学習課長

それでは、根岸委員に引き続き第5期の委員長として、ご指導をお願いしたいと思います。今後の議事進行につきましては、根岸委員長にお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

根岸委員長

編さん事業、歴史や文化をどのように後世に伝えていくか、あるいはそれを活用しながら小金井の文化力をいかに高めていくかということが仕事だろうと思っています。是非ご協力よろしくをお願いいたします。

副委員長につきましては、私の方で推薦させていただいてよろしいわけですね。

関生涯学習課長

はい。

根岸委員長　それでは、副委員長は本日欠席ですが、牛米委員に引き続きお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員　（承認）

根岸委員長　ありがとうございます。それでは牛米委員にお願いいたします。それでは、議題に入っていきます。議題(1)事業の総括について、お願いします。

### 3 議 題

#### (1) 市史編さんの総括について

山崎文化財係長　市史編さん事業が一段落いたしましたので、そのまとめ、総括をというご提案がございました。それを受けて、骨組みなのですが構成案を作りましたので、ご意見をいただきたく、提示いたしました。

資料1「小金井市史編さんのまとめ（総括）構成案に沿って簡単にご説明いたします。まず、冒頭「市史編さん事業を終えて（仮題）」として、市史編さん委員の根岸委員長からのご挨拶の言葉をいただきます。次に「市史編さん事業の経過」として、平成20年度から行われております会議の記録、そして、こちらは根岸委員長からご指摘いただきました市史編さん事業について、市民に周知した市報掲載記事、編集方針、年次計画の変更の経過も含むもの。市史編さん記念講演会等のチラシもご意見をいただきましたので、入れていく予定です。

次に「刊行物について」、これはですね、小金井市史資料編、小金井桜、近代、近世、現代、近世、考古・中世、通史編の合計6冊の刊行物を刊行しました。その各々について、特徴、目次、主な写真も取り入れた解説を加えたものを作成することを考えております。

次に5番目として、関連条例等、市史編さん委員会条例、市史編さん大綱他、編集委員の皆さんでお決めになった執筆要綱等内規のようなものも含めて掲載いたします。

最後に6番目として、「市史編さん関係者名簿」として編さん委員会委員、編集委員、調査員、市民協力員等関係者の名簿をつける形の体裁を考えております。委員の皆様のご意見、ご要望がございましたら、お伺いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

根岸委員長　はい、ありがとうございます。今総括の構成案にですが、冒頭の「市史編さん事業を終えて」については、改めてみると終わってはおりませんし、今後も続きますので、「小金井市史資料編、通史編を編さんして」にしてはいかがでしょうか。

山崎文化財係長　はい。確かにそうですね。そのようにいたします。

根岸委員長　総括をする上で重要なのは、市史編さんの経過をきちんと確認することです。今後自治体史の編さんをするときに役立ちますし、今他の自治体、市町村でも市町村史等の作成をしていますので、問い合わせも多数来ると思います。また、市民からの様々な質問や公開請求の対応もあるかと思えます。そういう時に一番市史編さん室で必要なものは、実はこのような資料なのです。どのような経過で編さん室が取り組んで

きたかの記録です。チラシという話がありましたが、今まで、市史編事業が始まってからいろいろなチラシが作成されたかと思います。10年間の間に形も変わってきたかと思います。チラシの史料性にもつながってきます。各部会の総括と今後の問題、刊行物、関連規則、市史編さん関係者の名簿という体裁となっておりますが、何かご提案ございますでしょうか。

中嶋委員は、いろいろなところで自治体史に関わってこられたと思うのですが、そんな中で、経緯をきちんとまとめた総括を作ることはなかなかなくて、刊行記念式典と簡単な年表、関係者の名前だけで終わってしまうというのが現実的には多いような気がするのですが、いかがでしょうか。

中嶋委員　そうですね、総括というのをやっているのはあまり見たことはないです。重要なことだと思います。以前に比べると今段々と市史編さん事業をするにも余裕がなくなってきました。今後自治体史を作る上でどのような苦労があるのか、出発する時点で何が必要かが分かると編さんに携わる人はやりやすくなると思います。

総括については、5月頃、部会ごとにまとめて提出したかと思うのですが、今後どういう形に作られるのですか。

山崎文化財係長　こちらなりにまとめてはおりますが、皆さんのご意見を今回とは別途、今後の課題に結び付けて、どういう形でこちらに載せるかという場面で各部会長にはお伺いする予定です。

中嶋委員　最終的な判断はそちらでするにしても、強調する点が異なるといいますので、事前に見せていただきたいです。

根岸委員長　それぞれの部会の総括については、専門部会に原稿を見せていただいて、一緒に考えていただくということでお願いいたします。その上での全体の総括もやる必要がありますので。

必要な場合は、文章を入れさせていただけるといいかと思います。

山崎文化財係長　かしこまりました。

根岸委員長　井上委員、いかがでしょうか。

井上委員　とても大事なことなのですが、総括をすることも大変な作業にはなるので、よく引き受けていただけるなと思っております。原稿執筆をメインに担当された方と協力員として関わってくださった方が率直にどのように感じていらっしゃるのかはぜひ伺ってみたいと思います。

大熊委員　小金井市史に興味をもってもらう機会となるものが、新庁舎の中にあつたらいいなと思っております。それが小金井の羅針盤の一つになって、どうしてこうなっているのだろうと思ったときに、市史を手にとつて詳しく読んでもらう。小金井の歴史と学校で習った歴史と区分が違うと思うのです。例えば明治時代、近代の専門家の先生の前でお話しするのは憚れるのですが。

例えば、年表が市史編さんのまとめの最終ページにあつて、これが貼りたいといえイメージが分かるように、改めて作ってもらうのではなくて、原案がないと、分かってもらえないので、だいたい数として全体

的に100くらいでまとめていただいて、それで、その大きな時代の流れをつかめるように。

江戸時代を讀んでみると、享保の改革あたりが小金井は小金井らしく変わっていつている。中央から少し離れた小金井が独自の文化を形成している。だから今いろいろあるということがよくわかります。中嶋委員が書いてくださったところですね。

中嶋委員　そうですね。

大熊委員　すぐにできないとしても、将来予算をとったときに作成していただけるように、原案を作っていただきたいと思います。

根岸委員長　大熊委員のお話は、次の令和2年度以降の事業計画について、年表と索引を積み残しているの、その話題が出ると思っています。そこで取り上げてよろしいでしょうか。

大熊委員　申し訳ないのですが、ぜひ実現したいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

根岸委員長　年表のことはこれから作成する必要があると認識しております。

八王子市でも、総括として作成したものを販売しておりますが、それは市民対象の宣伝的要素の多いものですから、我々のように内部での反省材料という目的で作成しているものとは異なると思ひます。それにも対応できるものにはしていきたいと思ひます。

山崎文化財係長　それでは、本日いただいたご意見を反映させて、進めてまいりますので、よろしくお願いたします。

根岸委員長　それぞれの部会の総括については、専門部会に原稿を見せていただいて、一緒に考えていただくということでお願いたします。その上での全体の総括もやる必要がありますので。

山崎文化財係長　かしこまりました。よろしくお願いたします。

根岸委員長　それでは、総括についてはよろしいでしょうか。つづきまして、令和2年度以降の事業計画について、お願いたします。

### (3) 令和2年度以降の事業計画について

高木主事(学芸員)　事業計画についてご説明いたします。資料2をご覧ください、小金井市史関連刊行物計画概要と題しました資料を作成いたしました。今後の市史編さん事業につきまして、歴史資料の保存とともに資料を活用した事業を行っていくという考えを事務局としてはもっております。保存と活用です。趣旨にありますように、刊行した小金井市史を基礎資料としながら、市史編さん事業の蓄積を市史編さん活動、または文化財保護事業へと継承し、歴史資料や文化財の活用を図っていくことが、今後の行政としての方向性の一つと認識しております。これまで市史編さん事業で調査員の方々、市民協力員の方々が調査研究をされてきた成果を昨今の市民ニーズをしっかりとらえながら、刊行物等に形にまとめ発刊してまいりたいと考えております。その上で、2刊行物の候補を少し列挙しております。多岐にわたるのですが、時代を問わず全体として必要なものとして年表、索引、ダイジェスト版を始め、時代毎にも特徴的な例を

挙げております。当然これだけにとどまるものではないと考えております。あくまで一例として提示しております。このような候補がたくさんある中で、では今後どうしていくかですが、3刊行計画案では、令和2年度を初年度とし、刊行物の編集を進め、順次刊行を行うものです。まず、今後5年間の中では、小金井市史の年表、索引、ダイジェスト版を始め、原始・中世の分野、近世の分野から抽出して、発刊を目指していく所存です。もう少し具体的に話をしますと、まず初めに通史編では掲載ができませんでした小金井の時代年表をまとめていくこととなります。これは非常に多くの作業量が見込まれます。年表編は、令和3年度の発刊を目指すために2か年を要して編さんをすすめていく予定です。来年度における予算の確保が前提となるのですが、外部の調査員を招聘し、資料調査をする必要があります。また、編集におきましては、各時代を担当された編集委員の方々と必要に応じてご相談し、作業を行っていくこととなりますので、その際にはぜひよろしくお願いたします。この年表編と並行しながら、原始・中世又は近世以前の分野から刊行物を発刊していく準備をすすめていく予定です。これが5年間の話です。

続く6年目以降ですが、さらに近代の分野、現代の分野から本にまとめていくものを選びながら計画を練ってまいります。

以上、令和2年度を皮切りに、今後前5年、後5年の計画概要をお示しいたしました。

市史編さん委員会においてご意見を賜りながら、刊行物の発刊を進めてまいりたいと思います。以上です。

根岸委員長

さきほどからの話の続きになりますが、市史資料編、通史編の刊行が終わっても、編さん事業は続くということで、まず行わなければいけないのが、積み残しの年表、索引を2か年で作りたいということでした。市史を簡便に読めるような、カラー写真や絵の多い読みやすいダイジェスト版を作成していく。そこに特色を出す中で、もっと詳しいところは市史の通史編や資料編を見てください。そういうような形にして、大熊委員がおっしゃったような小金井の特徴がきちんと分かる形に編成したダイジェスト版を作成していく。そのような中で市民の方に啓発をしていく。基本的に今後10年間のことを今のうちに考えて、年表作成に2年間、ダイジェスト版が3年ですか。次の5年間、5年全部使うかどうかは別にして、大熊先生が前々から度々おっしゃってくださった子ども用の市史、具体案はないわけですが、場合によっては、漫画が挿絵に入ったり、今後はメディアの発展によって、刊行物ではなく動画になる場合もあるかもしれませんが、子ども達に歴史や文化の良さを知ってもらう、再発見してもらうようなものを作りたいということが計画になっております。

それだけではなく、それとは別に、今まで、各分野で整備し、翻刻し、調査して、まだ形になっていないものをこれから刊行していく、それが、文化財の啓発事業にもからめていけばいいというのがこの提案です。今日の資料 3-1 に小金井市史編さん活動 市民協力員調査項目一覧とい

うのがありますが、こういうところで、市民協力員によって様々な調査がされておりますが、一部は市史編さんでも使わせていただきましたが、そのようなものを形として少しずつ刊行していく、来年度の作成候補は石造物ですね。今年度行う予定の企画展につなげていく。そういうようなものを今後続けていくことで、こつこつと編さん事業を更に続けていくということが今の計画となっておりますが、これについていかがでしょうか。

事務局から何かございますか。

関生涯学習課長

事務局からは具体的な計画ということで、今後の前半5年、後半5年の計画をお示しいたしました。小金井市史編さん大綱に基づく事業計画については終わったということだと思いますが、それをもって市史編さんをやらないわけではなくて、次の段階だと思っております。今は概要という形で、今まで蓄積した資料、データ等、未整理のものも含めてあると思っておりますので、概要ですが、10年間という形でお示しをしたところです。

具体的には、まず年表の必要性を十分認識しております。これについては、来年、再来年の2か年をかけて作成していきたいと考えてございます。小金井の石造物についても、資料として刊行していけるものは、順次刊行して、市民の皆さんに提供していきたいと考えております。

概要になるのですが、皆様にお示しして、ご意見を賜ればと思います。よろしくお願いいたします。

根岸委員長

計画をお示しいたしましたが、いかがでしょうか。少なくとも、年表と索引については終わっていない、積み残しになっておりますので。それができて完全な小金井市史になります。

井上委員

年表について、百くらいの項目で歴史のうねりが分かりやすいものと大熊委員がおっしゃっていましたが、この間刊行した通史編で積み残したのは、詳細な年表が必要なのですよね。両方ありますね。

根岸委員長

通史編作成の際にできなかった詳細な年表は、作成する必要があります。ここで百項目の年表というのは、小金井の歴史の流れの趨勢がわかるような年表をという難題ですね。それをいただいたのですが、そういう工夫ができるようなものを2年間かけて作っていくということになるのかと思います。

大熊委員長

詳細な年表だと分かりづらくなります。

根岸委員長

やはり詳細な年表は一つきちんと作成しておく必要がございます。

大熊委員長

小金井市の子ども達はやはり学力が高いのです。今日行った学校は、全国の学力テストの平均点より学校の平均点が10点以上高いところでした。

同時にやはり歴史を紐解いてみると、小金井の文化レベルの高さというのがあるだろうと思うのですね。地域の文化レベルの高さにもつながってくる。小金井が台地であるにもかかわらず、一定水が出た。人が集まる、群れる場所であった。そこに文化が発展していったのだなと思います。人が群れる住みやすい場所で、共同作業が行われ、知恵が出され、



それが今の小金井を作ってきたのだと私は考えています。ざっくりばらんに言うと。もう一つは江戸との関わり、中央政府との関わりから少し距離をおいて、俯瞰して頭が働いている。言いなりになるのではなくて、しっかり自分達でどう生活していったらよいかを考えてきた小金井の様子を俯瞰できるのではないかと。読ませていただいた感想がそこにあるので、専門家ではないので、間違っていたら教えていただきたいのですが。

そういった小金井の歴史を紐解くには、詳細の年表ではわかりづらくなってしまいます。学校の年表はだいたい100から120、130くらいで出来上がっております。

根岸委員長

とりあえず、ここでは、2年間は年表、索引を、その間に考えなければいけないと思うのですが、次の3年間はダイジェスト版を作る。それは、小金井市史の執筆をされた、関係した人々、専門部会の部会長に基本的には書いていただくという考え方でよろしいのでしょうか。

高木主事(学芸員)

基礎資料として既に通史編と資料編ができましたので、それを組み替える形ですので、年表の方は、基本的は事務局主導で、内容については、担当された各編集委員、調査員の皆様にもご協力いただいてまとめていくと考えています。

根岸委員長

とりあえず年表については事務局主導でよろしいのですね。年表、索引、市史ダイジェスト版、子ども市史が今後10年間の大きな編さん事業の計画になります。前の市史編さんと比較するとだいぶ規模は縮小しますが、継続的に刊行を続けていくという計画はよろしいのでしょうか。

委員

(承認)

大熊委員

同時に、小中学校へのPDF配付ですが、市史を読んでそれを子ども達のために10冊、20冊を各学校に配付するのは、なかなか教材として活用する上では難しいです。

やはり細かく分類し、インターネットで見られる形で進めていただかないと学校の教材としての活用は難しいです。中学生で一番話をして興味をもってもらったのは、武蔵小金井に桜があったのではなく、桜があったところに武蔵小金井駅ができたという話です。サクラと小金井で調べてみたり。地元にあるものをみていきたいというのが大事な点だと思います。実際の歴史の教科書に書いてあるものではなくて、小金井の歴史を見てもらいたいと思います。PDFが配付されて、先生が見てごらんといえば、興味、関心を持った子どもは見に行くと思うのです。何らかの形で進めていただくことはとても大事だと思います。

根岸委員長

中嶋委員、いかがですか。

中嶋委員

年表を作る件ですが、事務局主導でとおっしゃいましたが、重要事項をピックアップすることは、部会長がしていくことになるかと思えます。例えば、小金井の町制施行、都市化の始まりの時期というのは、教科書には何も出てきません。やはり小金井にとってどうかという観点、一般的にはたいしたことではないと思われることでも、我々と事務局では観点が異なる場合がありますので、事務局案の年表に我々が足しこん

でいくことにもなるかと思えます。

根岸委員長  
大熊委員

それは是非やっていただきたいと思えます。

東京学芸大学という大学は実は陸軍技術研究所だった。防空壕もあって、その入り口はまだ残っている。そういうことを中学校の先生が実は授業で教えているのです。そのことを基に子どもが書いた人権に関する優れた作文を見せていただいたのですが、学芸大学の先生は、小金井の文化を教材化しているのだと分かりました。後追いなのですが、通史を読んで理解しました。学芸大学には「荒畑さんのケヤキ」と名付けられた木があるのですが、それは、昔農家の人の屋敷森の周りにあった。陸軍技術研究所に取り上げられた後、学芸大学の敷地になってもそのまま譲ったと。そういうことを中学生の子ども達は自分で調べて知っているのです。学芸大学の子ども達だけでなく、小金井の子ども達にも知らせたいなと思えました。学芸大学の校舎内も歴史の宝庫です。中学生なら十分に考えられる。サクラだけでなく、小金井を作っている大きな歴史の流れですね。

中嶋委員

陸軍技術研究所が移ったことは分かっていますが、どの程度稼働したかは実は不明です。学芸大学だけでなく、第一中学校も、陸軍技術研究所の一部を使って校舎を作ったと聞いています。そういったことはあまり重要ではないと思われるのですが、小金井を語る上では重要です。

高木主事(学芸員)

今お話にあった、陸軍技術研究所は、小金井の近現代史を特徴づけるできごとですので、こちらの調査は外せないと思っております。こちらについては、協力員の方が少しずつ調査を進めてきた過去があります。こちらの調査も内容がまとまり次第形にしていきたいと思っております。内容は、陸軍技術研究所が移転した経緯やどのような施設があったか。稼働しているか。こちらは聞き取りをベースにした調査報告という形になるかと思うので、過去に明らかにされておりませんので、可能であれば、刊行の10年計画の中に加えられればと思っておりますが、慎重に精査してまいりたいと思っております。

根岸委員長

とりあえずそのような形でよろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは、市民協力員の活動について、お願いします。

### (3) 市民協力員の活動について

高木主事(学芸員)

資料3をご覧ください。小金井市史編さん活動 市民協力員調査項目一覧です。市民協力員の方々の活動状況を一覧にまとめたものとなります。実際の報告書は紙又は電子データで文化財センターに保管しております。大変膨大な量となっておりますので、あくまでもリストのタイトルのみでお示いたします。

初めに、閑野さんの調査報告です。近世の時代を対象に、石でできた石造物の確認、調査を行っております。非常に緻密な調査をしていただいております。時には新たな史料が発見されることもありまして、歴史資料の保全にも貢献されております。小金井市内のあらゆる場所に実際に足を運び、足で稼いだ調査データです。寺社仏閣だけでなく、個人のお宅

にもご訪問し、時には路傍にある石造物をくまなく調査をされております。これまで小金井市では石造物の調査報告を行ったことはありませんので、新たな資料として市民に分かりやすい形で提供していきたいと思っております。

次に畑野協力員調査報告です。明治20年以降、政財界、多彩な面々が小金井にいたことが分かってまいりました。

地域に精通した協力員の方々には、引き続き市内の調査をお願いしたいと考えております。ご不明な点がございましたら、お申し出いただけますでしょうか。

根岸委員長 これからも調査を継続していただくということでよろしいでしょうか。

委員 (承認)

根岸委員長 それでは、議題はここまでですが、委員の方でご質問等が無ければ、報告 小金井市史刊行記念講演会について、お願いします。

#### 4 報告

##### (1) 小金井市史刊行記念講演会について

山崎生涯学習課長 小金井市では平成20年度から約10年にわたり6冊の小金井市史を刊行いたしまして、平成30年度末をもって各専門部会において資料調査、研究、執筆にあられた編集委員、調査員等総勢36名の方達への市の委嘱は終了いたしました。これを一つの区切りといたしまして、市史刊行記念講演会を11月2日(土)午前10時から、宮地楽器小ホールにて開催いたします。

当日は、大熊教育長がコーディネーターとなり、4人の各専門部会の編集にあられた市史編さん委員の先生方に、各時代と現代の小金井とのつながりについて、また、市史編さんのご苦労話や他の自治体史編纂のご経験のある専門の方の視点からの小金井市の魅力を語っていただきます。「市史をもう一度手に取っていただくこと」を目標にしています。この事業への現時点の応募者数は70人ほどです。

根岸委員長 この件についてはよろしいでしょうか。

委員 (承認)

根岸委員長 それでは、市史編さん資料第59編 梶野家文書(4)について、お願いします。

##### (2) 市史編さん資料第59編 梶野家文書(4)について

高木主事(学芸員) 市史編さん資料第59編、こちらは、文化財センターで保管中の古文書の筆写済み資料の中から例年1冊ずつ刊行を行っているもので、今回は、第59冊目、梶野家文書第四巻です。梶野家につきましては、毎回ご説明しているところではございますが、現在の玉川上水の近くに村を開いた梶野新田、現在の梶野町にあたる場所ですが、こちらを開いた旧家として、そちらの梶野家のお宅では、1000点を超える資料をお

持ちです。こちらを小金井市に寄託していただき、毎年根岸委員長に翻刻をお願いして、翻刻済みのストックを増やし、そこから毎年1冊分を刊行しており、現在59冊目となっております。今年度中の刊行を予定しております。以上です。

根岸委員長 今年度中の刊行となるのですね。  
その他にご報告はございますか。

関生涯学習課長 特にございませぬ。

根岸委員長 それでは、次回の日程についてお願いします

#### 5 次回の会議日程

山崎文化財係長 次回は令和2年2月3日(月)午後2時から、こちらの会場となります。よろしくお願いいたします。

根岸委員長 では、議題これで、第2回の委員会を終了いたします。どうもありがとうございました。事務局にお返しします。

関生涯学習課長 本日も貴重なご意見いただきまして、ありがとうございます。以上を持ちまして、本日の審議会を終了いたします。どうもありがとうございました。